

■大学院 文学研究科 日本文化専攻

教育研究上の目的
<p>大学院学則第2条 (目的)</p> <p>本大学に設置する大学院(以下「本大学院」という。)は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。</p>
<p>大学院学則第6条の2 (研究科及び専攻)</p> <p>修士課程においては、日本歴史、日本文学、日本語学の研究を中心に、古代から近・現代に至る歴史や文学、日本語・日本文化の諸問題を横断的、総合的、かつ個別的に研究し日本文化の独自性と多面性について、実証的に研究する。また、教育機関で活躍できる人材を育成することを目的とする。博士後期課程においては、修士課程でつちかった実証的な研究をより高め、さらに専門的な知識、思考力、分析力の涵養を目指す。また、研究者や高度な専門分野に従事する能力を養うことを目的とする。</p>
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に定められた修了に必要な32単位を修得し、かつ修士論文を作成提出したうえで、修士の学位を授与します。修士論文の内容は、書き直しを含めた上で、査読のある専門誌に掲載されることが期待できる内容であることを必要とします。また修士論文提出後に主査・副査による論文審査と口述試問による審査を行います。</p> <p>上記以外に、修士課程にある学生自身の知的探求心に基づく主体的な研究実践が望まれます。以下は、それに即した学位授与方針となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本文化に関する幅広い視野と見識を獲得し、資料批判能力や実証的な論証の技術を身につけることを通して、日本文化の諸事象に対して独自の判断・評価を行い得る人材であること。 (2) 日本文化に関する専門的な知識と資料の読解力を有し、その能力を社会に還元できる人材であること。 <p>【博士後期課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻博士後期課程では、愛知大学大学院学則に定められた専修科目4単位以上と研究演習4単位を修得し、3年以上在籍した上で、指導教授による論文作成の指導を受けた者は、課程博士論文を提出できます。課程博士論文の提出後、口述試問を含む審査委員会による厳密な審査を経て、課程博士の学位を授与します。課程博士論文は、査読のある専門誌に掲載された論文2本を含む、数本からなる専門論文で構成されるか、それに準ずる内容であることを必要とします。ただし、課程博士号は博士後期入学後6年以内であれば取得できます。</p> <p>上記以外に、博士後期課程にある学生自身の知的探求心に基づく主体的な研究実践が望まれます。以下は、それに即した学位授与方針となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本文化に精通し、高度な専門的知識と幅広い教養を駆使して、専門分野の研究を独自の視点から推進、発展させ得る能力を有すること。 (2) 日本文化に関する専門的な知識と教養を有し、その培った能力を、教育・研究分野における専門的な職業人として社会に還元し得る人材であること。
教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻修士課程では、日本文化における多面性や独自性など諸問題についての総合的な把握に関しては、必修の日本文化研究方法論では日本語学、日本文学、日本民俗学、日本史学など個別の各専門分野を総合した日本文化の研究方法を修得します。しかしそれだけではとどまらず、さらに選択科目の中でも、個別の専門分野ではない他分野の日本文化に関する科目4科目16単位以上を取得できるようになっています。さらに日本文化以外の、文学研究科内の地域社会システム専攻や欧米文化専攻や他研究科に関する科目も2科目8単位まで取得可能となっています。</p> <p>一方、個別の専門分野について個別的に実証的に研究することに関しては、各分野の専修科目において、専門的講義4単位を受け知識を獲得し、演習8単位において専門的な研究能力を養い、最終的に修士論文を作成するようにしています。</p> <p>また中等教育機関の教員や博物館学芸員などの専門職や博士後期課程に進学できる人材の養成をめざします。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻博士後期課程では、修士課程における専門的知識を基としつつ一層高度な専門的研究能力の向上を目指して、必修の専修科目1科目4単位及び研究演習4単位を修得します。それ以外の専修科目についても、指導教授の指導の下で取得が可能です。なお専修科目は、日本文化に関する各分野の専門的な知識、思考・分析力について修士課程よりのさらなる資質向上をめざすためのものです。研究演習は、課程博士論文を作成するための指導であるとともに、高度で専門的な研究方法と研究能力のさらなる向上をめざしたものです。</p>

愛知大学 3つのポリシー (2021年度向け)

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

【修士課程】

文学研究科日本文化専攻修士課程では、以下の通り入学者受入方針を定めます。

- (1) 本専攻進学に先立って、学部教育における一般教養と専門的知識を備えている人。
- (2) 専攻の個別専門分野である日本語学、日本文学、日本民俗学、日本史学を中心に、古代から近現代に至るまで、日本文化における独自性や多面性などの諸問題について総合的に把握する意欲を有する人。

【博士後期課程】

文学研究科日本文化専攻博士後期課程では、以下の通り入学者受入方針を定めます。

- (1) 修士の学位を取得した上で、修士論文を基に、専門的な知識、思考力、分析力など研究能力についての更なる向上が見込める人。
- (2) 日本文化に関する専門的な教養を有した上で、さらにそれをより広い文脈の中で相対化し、横断的に隣接諸分野へと架橋し得る柔軟性と思考力を有する人。
- (3) 日本文化に関する専門的研究を深め、研究者として当該分野における研究を発展させ得る能力を有すると共に、教育者として高等教育においてその能力を発揮しようとする意欲を持つ人。